

## 「いじめについて考える」調査の進め方

## &lt;実施に当たって&gt;

- ・本調査の実施に当たっては、問題等懇談会の委員が進行する。
- ・児童生徒に、本調査は仙台市教育委員会からの協力依頼があり、実施するものであることを事前に伝える。

**I いじめの具体的な行為について、確認する。** p.1

※ 資料「仙台市いじめ実態把握調査」で「いじめを受けている」と回答した人がその具体的な行為として選択したものを多い順に示したもの

- 多い順に例にも触れながら、読み上げていく。

## &lt;留意点&gt;

- ・行為や事象の特性については触れない。

**II 調査の趣旨について簡単に説明する。** p.2

- 「いじめ」がある場合、「いじめをしている人」の存在があることを確認する。  
(p.1は被害側の回答であるが、いじめには加害の存在があることを確認する)
- この調査では、「いじめをしてしまうとき(しているとき)」、「いじめをしないとき」の人の意識や気持ちについて、自分の考えを書いてほしいと言うことを説明する。

## &lt;留意点&gt;

- ・第三者的な立場で考えてかまわないことを伝える。
- ・実際には自分の意識を振り返ることにもなるが、この調査は加害行為について、教師が指導するためのものではないことを伝える。

**III p.1の回答の多かった「1, 2, 3の行為」について考えを記入させる。** p.2

- (1)の設問を読み、以下の二つの考えに大別されることを確認する。  
A) どちらかという、いじめているつもりはない  
B) どちらかという、いじめていると気付いている
- 自分の考えが、上記A, Bのいずれの考えに近いかを考えさせる。
- Aであれば、①から⑦の中から、Bであれば、⑧から⑰の中から、主にあてはまると思うものを3つ以内で選択し○を記入させる。※選択肢について参照

## &lt;留意点&gt;

- ・自分の考えにとっても近いと思うものを1つ以上3つ以内で選ばせる。
- ・その他を選んだ場合は、その具体を□に記入させる。

IV p.1の「4, 5, 6, 7, 8の行為(1, 2, 3よりは少なかった行為)について  
考えを記入させる。」 p.3

※(2)の設問を読み、Ⅲと同様に進める。

V 「いじめをしないとき」の意識や気持ちについて考えを記入させる。 p.4

○(3)の設問を読み、主にあてはまると思うものを3つ以内で選択し○を記入させる。

<留意点>

・その他を選んだ場合は、その具体を口々に記入させる。

VI (4), (5)について、回答させる。 p.5

○(4)の設問を読み、回答させる。

<留意点>

・質問等があれば、被害者、加害者、それ以外の者のどの立場から書いてもよいことを伝える。

○(5)の設問を読み、回答させる。

ここで調査終了

参考【選択肢について】・・・先生方の参考資料です。児童生徒への説明はいりません。

A どちらかという、いじめているつもりはなく、

- |     |                                    |              |
|-----|------------------------------------|--------------|
| ※ { | ① 相手も楽しんでいる、喜んでいて思っていたから           | ⇒遊びの延長       |
|     | ② ちょっとした「ふざけ」、または「ふざけ合い」のつもりだったから  | ⇒ふざけ         |
|     | ③ 自分も相手から嫌なことをされていたので、仕返しのつもりだったから | ⇒仕返し         |
|     | ④ 行為そのもの(1から3のような行為)が楽しかったから       | ⇒自分が楽しい      |
|     | ⑤ 他の人もしていたから                       | ⇒追随          |
|     | ⑥ 相手の気持ちをあまり想像していなかったから            | ⇒想像力・思いやりの不足 |

B どちらかという、いじめていると気付いていて、

- |                          |                                     |            |
|--------------------------|-------------------------------------|------------|
| ※ {                      | ⑧ 相手が自分に嫌なことをするので、仕返しをしたかったから       | ⇒仕返し・報復    |
|                          | ⑨ 相手が悪いことをしているので、嫌な思いをさせたかったから      | ⇒制裁        |
|                          | ⑩ 相手のことが気に入らなかった(嫌いだ)から             | ⇒嫌悪感・妬み    |
|                          | ⑪ 相手が困ることで、自分が強い立場になったような気がしたから     | ⇒示威行為      |
|                          | ⑫ 相手の反応がおもしろかったから                   | ⇒特定の人への嗜虐性 |
|                          | ⑬ 行為そのもの(1から3のような行為)が楽しかったから        | ⇒不特定の嗜虐性   |
|                          | ⑭ 自分がいじめられないようにするためには、いじめること必要だったから | ⇒被害回避      |
|                          | ⑮ 他の人もしていたから                        | ⇒追随        |
| ⑯ 他の人に指示され、断ることができなかったから | ⇒強要された                              |            |

※は、いじめの対象となった相手のようすや行動に関係しない理由

## VII 「調査の趣旨」と「いじめの行為」について解説し、いじめについて考えさせる

- (1) 「いじめは許さない」と「いじめはどこにでも起こり得る」という矛盾する2つの主張が存在することについて触れる。

<例>

- ・いじめは、実際、社会や学校の中で、起こり得るものです。
- ・いじめは予防しなければいけません。しかし、それでも時折いじめは起こります。(矛盾するが、人間社会においていじめが全くないというのは現実的ではない。)
- ・いじめるという心理は、特殊な人間だけに起こるものではありません。
- ・とりわけ、成長過程にある皆さんの間では、様々な軋轢が生じるものです。(もちろん、先生も踏んできた過程です。大人社会もゼロではありません。)
- ・しかし、常にいじめがあって、毎日互いに警戒しけん制し合いながら生活するなんていうことが、あたり前にあっていいわけではありません。
- ・誰にでもどこにでも起こり得ることであるからこそ、「許さない」という私たちの決意が必要であり、互いに「なくしていこう」とする努力が必要だと考えています。

- (2) 本調査は「いじめはどこにでも起こり得る」という考えに立って行ったということを説明する。

<例>

- ・よって、いじめるという心理は、特殊な人間だけが持つものではないと考えた時に、皆さんとその意識や気持ちについて考えていきたい(皆さんはどう考えているのかを知りたい)というのが、今回のこの調査の目的です。(しかし、調査の前にあまり詳しく説明すると、皆さんの回答を左右してしまうと考え、調査後に説明しています。)

- (3) いじめをしてしまうときの意識について、「1から3」と「4から8」の行為に分けて考えた理由を説明する。

<例>

- ・1から3を合せると、その回答は全体の8割(小学校で7割)を占めています。このことからこれらの行為は、起こり得る確率が高い行為と言えます。(普段の学校生活を振り返ってもその確率の高さは理解できますね。)
  - ・ちなみに、「4から8」は、そのほとんどが犯罪にあたる行為ですから、起こる確率が低いのも納得できます。
- ※(参考) 名誉棄損、暴行、傷害、強要、恐喝、強制わいせつ、窃盗などの犯罪

(4) 1から3のような行為（起こる確率の高い、罪に問われることの少ない）について考えさせる。

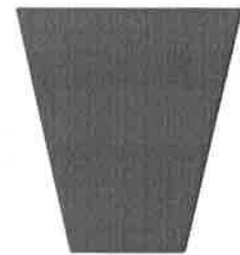
<例>

- ・さて、「1から3」の行為は「4から8」の行為に比べれば、一つ一つの行為は、軽いもののように感じます。（しかも犯罪にならない or なりにくい行為です）
- ・では、「冷やかしからい」はたいしたことのない行為でしょうか。「仲間はずれや無視」をされても気にならない程度の行為でしょうか。（皆さんどうですか？）

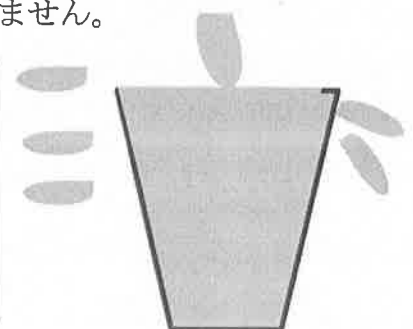
### 【参考資料】

- ・このような話があります。
- ・いじめられた子どもの心の中を、コップの水にたとえたものです。
- ・人の心は、見えないコップの中の水のようなものだと思います。（コップの絵を描く）
- ・「これくらいで“いじめ”とは言わないよ」という人もいます。大人でも世の中で起きた事件に「そんなことで死ぬなんて弱すぎる」なんていう人もいます。
- ・でも、毎日、からかわれたり悪口を言われたりしたらどうでしょう。
- ・例えば、授業中に間違った発言すると笑われる。遊びや活動の中で「ウザい」「キモい」と言われる。それを聞いていた人が遠くから笑う。そんなことが毎日ちょっとずつあったら？
- ・その人の心のコップに不快な水が今日も明日も、また何滴か溜まっていきますよね。
- ・でも、人の心のコップの中に入っている水の量は他の人からは見えません。
- ・例えば、このコップの中に入っている水の量が見えたとしたら・・・？（水の中が見えるコップの絵を描く）
- ・傷ついて不快な水で溢れそうになっているかもしれません。
- ・人の心は感じ方も違うし、溜まり方も違う。自分にとっては小さな一滴でも、他の人には10滴分かもしれません。
- ・コップのサイズも違うかもしれません。
- ・このコップは溢れそうだけど、実際には誰にも見えません。
- ・このコップに、みんながよく言う「ウザい」のたった一滴を加えたとします。よく言う「これくらい一滴」です。
- ・（ついにこぼれる）何気ない一言が最後の一滴になるかもしれません。

心のコップ



最後の一滴



<例>

- ・小さな行為、何気ない一言でも、どんどんその人の心に溜まっていき、とても苦しく辛い思いをすることがあります。
- ・人の心の中は見えません。見えないからこそ、互いを思いあうことが大事なのですね。